

1. How to 保全
「目視程度で可能な簡単な点検」 ～電気設備編～

これから夏本番です。近年は、夏に限らず、年中自然災害が発生していますが、夏と言えば台風、雷、停電が思いつきます。今回は、これらの災害等に対する事前・事後点検のうち「目視程度で可能な点検」について、代表的なものをまとめてみました。

■太陽光発電装置

台風シーズン前に太陽光パネルの裏面にまわり、安全な（無理をしない）状態で太陽光パネルの固定状態（ボルトの緩み状態）を目視確認してください。台風通過後も同様に目視確認してください。風圧荷重によりボルトが緩み、太陽光パネルが飛散すれば、太陽光パネル1枚あたり約20kgもあるので、非常に危険です。

また、玄関ホール等に太陽光発電用情報表示装置がある場合は、その出力値（kW、kWh）に注意してください。通常時より出力が明らかに少ない場合は、飛来物により太陽光パネルが損傷していることも考えられます。

	<p><太陽光パネル固定の状態> 固定ボルトや、固定金具が外れかかっていないか注意が必要。</p>
	<p><太陽光発電用情報表示装置> 特に現在の発電電力（kW）に注目し、好天にも関わらず発電電力が小さい場合は要注意。</p>

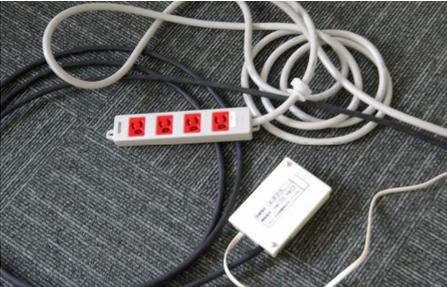
■避雷器

落雷被害を防止する目的で避雷器が設置されることが多くなりましたが、近くで雷が発生したあとは、避雷器が正常であるか確認が必要です。ただし、避雷器は、分電盤の内部、EPS、電気専用室等、電氣的に危険な場所に設置されている場合があります。これらの場合、劣化状態確認は専門技術者に依頼してください。

	<p><避雷器（赤丸部）の劣化状態> 雷発生時に動作する場合があります。 O A 盤等、事務室に設置されている場合は目視により確認するが、分電盤の内部、EPS、電気専用室等に設置されている場合は専門技術者に確認を依頼する。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■ 停電対策

非常用自家発電設備がある場合は連続運転時間が設定されているので、残油量（燃料、潤滑油）を確認してください。また、非常用自家発電設備に接続されている発電機回路の照明器具、コンセント（FAX、プリンター、PC、HUB電源等）を事前に確認、明示されるのが望ましいでしょう。

	<p><非常用自家発電設備用の燃料小出槽> 燃料小出槽（油槽）本体又は近傍の油量計により、残油量を確認する。 動作実績がない場合でも保守運転のため月に1～2度、短時間動作しているため、油（燃料）を消費している事に注意。</p>
	<p><発電機回路OAタップ> 発電機回路のスイッチ、コンセント等は色別により明示している場合が多い。 事前にどのような明示がなされ、かつ、どの位置に設置されているか確認する。</p>

■ 注意事項

電気設備の点検は、あくまで外部からの目視程度とし、基本的に専門技術者に依頼してください。